

1. はじめに

2023年9月4日から6日までの2泊3日、長野県の「観光振興を考えるフィールドワーク」に参加させていただきました。私は普段観光学について学んでおります。ゼミでは座学に限らず、実践的なグループワークを主軸に学習をしています。以前取り組んだグループワークは、政府や自治体が作成した観光PR動画から論理的かつストーリー性のある事例に触れ、訴求力のポイントは何かを考察するものです。また、グループごとに年度の異なる観光白書を読み解き発表したこともあります。

私自身出身が地方であり、大学受験・進学のために上京して3年経った今、都会と田舎にはそれぞれ良さがあり、一方で悪い点もあると感じています。そんな都会と田舎を知る私ならではの視点から長野県のこれからの観光振興について考えたいと感じます。今回のフィールドワークを通じてはじめて長野県を訪れました。予備知識や過去の体験が何もない私がフラットな視点でみた長野県の観光についても言及できればと感じます。

2. 長野県に持っていたイメージ

長野県を訪れたことがなかった私は、長野県に対してあまり特別な印象を抱いていませんでした。長野県といえば、りんごや桃をはじめとする果物の生産が盛んであること。強いて言うなら長野県上田市出身の友人が、よく季節のフルーツを実家から送ってもらったと話していたこともあり、農産物が最初に思いつきました。他には、夏場にテレビ番組で軽井沢特集が取り扱われていることから避暑地であることや、芸能人の別荘があるイメージもありました。

3. 実際に来てみて気づいたいいところ

まず、東京からのアクセスが良い点に驚きました。今回は東京～軽井沢間で新幹線を利用したのですが、1時間ほどで目的地に着きました。新幹線でゆっくり友人と話をしながらのんびり軽井沢へ向かうつもりが、あっという間に着いてしまい、物足りなさを感じました。自由席であれば、約6,000円とお値段も手頃であることから、都心に近くて便利な街であると感じました。駅前は程よく栄えており、少し離れると徐々にお店が減っていく様子がまさに地方都市の傾向にあるなと感じました。駅前だけで1日は過ごせそうになるため、何か所か訪れることで満足のいく旅行になる気がしました。

4. もう少しこうだったらいいなと思うこと

何か所か周遊することで充実した旅行ができるという意見に対して、公共交通機関が弱いことが問題点として挙げられます。今回のフィールドワークでも電車やバスなどの公共交通機関があまり充実していないことから、ある程度時間をかけて徒歩やタクシー移動を余儀なくされる場面がありました。例えば軽井沢駅から「ライジングフィールド軽井沢」への移動、戸倉駅から「姨捨ゲストハウスなからや」への移動、そこから「おせっかいハウス昭和の寅や」への移動、コワーキングスペース「Gorori」から戸倉駅への移動と、何度もタクシーを利用する場面がありました。2日目の自由散策ではタクシー移動が禁止されていた為利用しませんでした。上田駅から上田城までの徒歩移動は、ずっと上り坂だったこと、真夏の炎天下だったこともあり、たった15分弱でもしんどかったです。タクシー移動が禁止されていなかったらタクシーを利用していたと思います。観光地として有名な旧軽井沢銀座通り付近では、レンタサイクルも多く見られました。しかし、自転車に乗るのが苦手な人（私がまさにそうです）や、小さな子ども連れの家族も安全に、気軽に移動できる手段があればいいなと感じました。

5. ローカルヒーローの話/フィールドワークを通じて記憶に残っていること

今回のフィールドワークでは多くの方々との出会いがありました。そんな皆さんが口をそろえておっしゃっていたのが「人と人との繋がりを大切にされている」ということでした。きっかけは何であれ、1人の人との出会いが新たな出会いを産み、人との繋がりが広がり、それが大きな輪となった時に生まれる家族のような一体感を、私は随所で感じ取りました。ほんの20年ほどしか生きていない私たちにとっても親切にしてくださるだけでなく、色々なお話しをしてくれました。18年間田舎で育った私の経験上、地元の結びつきが強すぎるような地域では、外から来た者は厄介者扱いを受けることがあります。実際に私の地元では市長選においてその地域出身ではない立候補者が当選できないといった例がありました。外から来た移住者だけでなく、観光客ですら毛嫌いする地域が存在する一方、これだけ暖かく人を迎え入れてくれる空気感を持つ地域ははじめてでした。訪れる理由が人である地域に十分なる可能性を感じました。

6. 貢献できそうなこと

残念ながら私は SNS のフォロワーを多く抱える有名インフルエンサーでもありませんし、観光について特段幅広い知識を持っているわけでも、斬新な発想ができるわけでもありません。ですが、この2泊3日の経験を自分の周りの人に話すことで少しでも長野県に興味を持ってくれる人が増えるかもしれません。私たちがこの2泊3日で体験したことは、今の世代の人が普通に「旅行しよう！」と計画して同じ動向をたどれるプランではないと感じました。これだけいろいろな場所へ行き、多くの人からお話を聞き、体験ができたのはこのフィールドワークに携わってくださった方々のおかげだと思っています。だからこそ「同世代の友人に長野県ってこんなところだったよ。こんな人がいて、こんな経験をしたよ。」と話すことがきっかけで興味を持ってもらい、長野県を訪れるきっかけになってくれたら嬉しいなと思います。爆発的な影響力はもってなくても、ひとりひとり小さな輪を広げていけるひとつのきっかけとなる存在になればと思います。

7. 長野県で実現して欲しいプロジェクト

グループ内で話し合った「長野県で実現して欲しいプロジェクト」と、今回私が考えた「あったらいいなこんな取り組み」が重複する内容であった為、まとめて紹介させていただきます。私が今回提案するのは「地元住民がアテンドしてくれるツアー」です。今回、いろいろな人の持っている人脈の恩恵を受けて、多くの人に出会わせてもらい、交流ができました。そんな長野県で出会う人たちの温かさをもっと多くの人に知っていただきたいと考えました。しかし、観光客がたった数日で人脈を作るのは困難なので、地元住民の手を借りて人と出会える機会があると良いのではと考えました。ツアーコンダクターは地元の方。公共交通機関で補えないアクセスも、地元の人が車で案内して連れて行くことでカバーできるのではないのでしょうか。

このツアーが実現した場合の問題点は、最近の若者は保守的で、新しいことをすることに臆病であるということです。私もそんな若者のひとりでした。例えばゲストハウス。自分たちで宿をとるときは迷わずホテルから探すようにしていました。しかし、このフィールドワークで出会ったゲストハウスのオーナーさん方がとても暖かく迎え入れてくださって、私個人の悩みなんかも聞いてくださいました。私自身、いきなり新しいことをするにはハードルが高いと感じるけど、その一歩を踏み出してみると新しい知見を得ることができました。その体験をもっと多くの人に感じてほしいです。とはいえ、こういったツアーに参加しようと思える人は、いきなりゲストハウスにも泊まれる人だと思います。では、気後れする人たちにこのツアーに参加してもらうことを考えた際、宿泊費や飲食店のクーポンをつけ、自分たちの旅行よりも手頃な価格で参加できる等の特典をつけるのはどうでしょうか。クーポンに応じてくれたお店同士で情報共有をしたり、自分のお店に来て

くださったお客さんに別のお店を紹介したりすることで、観光客が人の繋がりを通じた恩恵を受けることもできますし、地域の人同士の繋がりも生まれ、街全体により一体感が生まれると思います。長野県の人々の温かさには人を引き寄せる魅力があると感じています。だからこそ、人に会うために長野県を訪れる人が増えれば、リピーターに繋がるのではないのでしょうか。

9. 自分たちの時代の旅の在り方

私たちは「今の時代の旅の在り方」を考える前に、以前の旅は何を目的としていたのかを考えました。以前は、旅行先を決める際は旅行雑誌、ガイドブックが主流であり、それらに掲載されているものは観光スポットや食がメインでした。現在は SNS が紙媒体の代わりとなっています。観光スポットや食も、「映え」が意識されるようになり、SNS で人の目を引くインパクトが重要視されるようになってきました。やはり、現代の人を呼び込むには SNS を上手く活用することが重要だと考えました。現在、観光客を呼び込みたいのは地方都市であると考えます。その原因として、過疎化、都心へ人が流れていっていること、少子高齢化などが挙げられ、それらの問題を抱える地域が観光客を呼び込むことは、移住者を増やしたいという狙いが隠れているのではないかと推測しました。そんな課題を解決するためには、人を呼び込むことが重要です。人を呼び寄せる何か（イベントやその町そのものの魅力など）を発信するために、やはり SNS を活用するのが良いと考えます。SNS に慣れていない世代は慣れている者（若者）を頼ることで、地域内でも世代の違う人々の交流が生まれ、街が一体となって観光業に前向きになれると感じました。クラウドファンディングで「応援したい！」と思ってもらえるような何かを計画することも得策であるという案も出ました。SNS に映えるものとは、以前からある観光資源が形を変えた観光スポットや食であり、結局以前から大きく変わっていないのではないかという意見が出ました。そこで、「ライジングフィールド 軽井沢」さんでヒントを得た、五感に着目した何かを人を呼ぶメインポイントにできないかと考えました。今は技術の進歩により、オンラインや VR など、その土地を訪れなくとも体験できることがあります。ですがその土地でしか体験できないものがまさに五感です。具体的にその先を話し合うことはできませんでしたが、何かに繋がれば良いなと思います。

10. 最後に

何度も繰り返すにはなりますが、今回のフィールドワークで私が最も強く印象に残っているのは、長野県の人々の温かさです。この世の中にはさまざまな人がいて、多様な生き方、人生があって、それぞれの考え方や感じ方があり、自分とは違うものを持っている人

もいる。みんな違ってみんないい、が尊重されている町だなと皆さんとの交流を通じて感じました。日本はどうしてもみんなと同じであることが尊重され、普通からはみ出している人は変な人として見られる風潮が残るなかで、生きにくさを感じていたのかもしれないと気づかされました。2泊3日中は、ありのままの素直な自分で居られました。それは、この人たちなら素直な自分を受け入れてくれるからだと信じたからだと思います。たった3日間でここまで充実した経験をできたこと、皆さんに出会えたこと、本当に幸せだと感じています。今でも皆さんのことを思い返して、恋しくなって、涙があふれそうになる夜も実はあります。またここに帰ってきたいとそう思える場所が増えてよかったです。また近いうちに遊びに行かせてください。この一度きりで終わりにするのではなく、今後もお付き合いしていきたいです。今度はもっと大きな貢献ができるように、大学での学業もより一層頑張っていきます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。